

# 一生懸命、運動に取り組む 子どもの育成

## 大分県別府市立山の手小学校

|             |                         |       |     |
|-------------|-------------------------|-------|-----|
| 全校児童数       | 538名(男子274名 女子264名)     |       |     |
| 全クラス数       | 21                      | 教職員数  | 29名 |
| 体育専科教員訪問学校数 |                         |       | 2校  |
| 訪問校         | 別府市立春木川小学校<br>別府市立鶴見小学校 |       |     |
| 体育専科教員名     |                         | 伊東 雅弘 |     |

### Plan：取組時の課題と計画

#### 1 取組時の課題

##### ◆一生懸命、運動に取り組む子どもの育成

2つの学校が統合して2年目。体育の学習の流れも定着してきた。新体力テストでは、全種目の54.2%が県平均を上回っていた。そこで今年も引き続き体育専科教員による系統的な体育学習、日常的な体力づくりを行い、子どもたちが自ら挑む体育を目指し「一生懸命、運動に取り組む子どもの育成」に取り組むことにした。

#### 2 取組の計画

##### ① 体育学習での取り組み

- ・体育専科教員を中心にTT体制で体育学習に取り組む。いくつかの単元でT1を担当にしてもらい、指導力アップも図る。
- ・授業の流れを示し、子どもに「次に何をやる」という見通しをもたせる。
- ・「今日、何を上手になるか」めあてを持たせ、45分間、一生懸命取り組めるようにする。

##### ② 日常生活での取り組み

- ・毎日、朝、中休み、50m走に取り組めるようにする。

### Do：実践内容

#### 1 体育活動の実践

##### (1) 体育専科教員と担任とのTT体制、少人数指導

T1の体育専科教員が全体指導にあたり学習を進め、クラスの状況を把握している担任がT2として、支援の必要な子どもにアドバイスしている。

ミニバレーボール、表現の学習では、T1を担当にして全体の流れを指導し、T2を体育専科教員にして、技術的なアドバイスを行うようにする。また、待ち時間を減らして運動量を確保するため、走り幅跳びや鉄棒のような、施設や用具の少ない運動でも、T1とT2で分担して2種目同時に行う等、全員が動く体育にしている。

##### (2) 学習の流れ「45分間、フルに体育」

授業時間を有効に活用し、常に体を動かせるよう工夫し、基本的な学習の流れを「走る→①準備運動→②主運動→ふり返し」とする。

- ①準備運動：音楽に合わせてストレッチ運動を行うようにする。
- ②主運動：「めあての確認→運動・学び合い→めあての立て直し→運動・学び合い」とすることで、子どもが主体的に運動に取り組めるようにする。
- ③ふり返し：学習カードに良かった点、反省点等を記録し、次時のめあてづくりのヒントとなるようにする。

### 2 毎日取り組む50m走

朝始業前と中休みの短い時間でもできることから、50m走に毎日取り組み、運動の基礎づくりとしている。学習カードに色を塗る等、個人で目標を立てやすくしている。外遊びや運動量の増加にもつながっている。

#### ●工夫したこと(&苦労した点)

- ①TT指導で1時間目に体育専科教員がT1で授業の流れを見せ、2時間目以降を担当にT1をしてもらい、指導力アップを図っている。
- ②見合い・学び合い：表現の「ポップコーン」の学習において、グループでポップコーンの動きづくりをするときに、タブレットでその動きの動画を取り、その映像を元に動きづくりの話し合いをさせている。
- ③壁新聞：学習の様子の写真に吹き出しで、運動のポイントやコツ等を記入して掲示板に掲示し、学習のヒントにする。

#### Check：取組の成果

- ①校内のアンケート調査の結果では、全員の先生が「場・用具の工夫、授業の流し方等、体育の授業の参考になった。特に、跳び箱、水泳、ミニバレーボールを自分でも参考にしてみよう」と答えている。
- ②TTでの指導と、学習の流れを工夫することにより、授業時間内でより多くの運動に取り組み、体を動かしている時間を増やすことができる。校内で行っているアンケート調査の結果では、83%の子どもが運動を一生懸命したと回答している。
- ③今年度の新体力テストでは、全種目の57.3%が県平均以上になっている。

#### Action：今後の課題

- ① 体育学習の指導方法の工夫・充実と、TT体制や少人数指導法の探求が必要である。
- ② 担任の指導力アップのため、授業の流し方、子どもへの指導の仕方等を体育専科教員と一緒に実践していく。
- ③ 50m走のさらなる充実に向け、学級の係活動や、運動委員会の取り組みと関連させることも必要である。
- ④ 年間指導計画を見直し、より多くの種目を体験させることも必要である。

### ◎体力向上の取組がもたらす波及効果

休み時間に、あまり遊ばなかった鉄棒、なわとび等を工夫して遊ぶようになり、いろんな種目ができるようになってきている。

# 「ミニバレーボール」における 45 分間、フルに体育

走る→準備運動→作戦・めあての確認・練習→主運動(ゲーム→作戦の立て直し・学び合い→ゲーム)→ふり返り



## T1を担当・T2を体育専科教員



## 「ミニバレーボール」の指導者講習会



## 場・用具の工夫



いろんな高さを  
たくさん跳べる  
よ!

表現:タブレット(用具の工夫)



## 運動のポイント



廊下に運動のヒントがいっぱい!

## 毎日の活動 50m走



みんな みんなで日本一争(2周目)



クラスのみみんなで頑張るよ!